

2015年3月期 決算発表後 IR 活動での Q&A

Q：全体：2015年3月期の通期業績（売上：2,376億円、前期比16億円増、営業利益：171億円、前年同期比82億円増）は前年同期比で増収増益だったが、増収幅に対して、増益幅が大きかった理由は？

A：前上期に実施した緊急対応策の解除や為替の円安影響などにより、人件費や研究費などの固定費は増加したものの、変動費の削減やSEの製品構成比の変化、たな卸資産評価損の減少などが、その理由です。

Q：全体：今期（2016年3月期）の見通し（予想>> 売上：2,480億円、営業利益：190億円）は保守的に見える。収益改善が進み、営業利益率はもっと上振れするのでは？

A：足下の環境は、3セグメント（SE：半導体、GP：印刷・プリント基板関連、FT：FPD事業など）とも好調ですが、主力事業であるSEにおいて、下期の市況に対する不透明感も否めず、現在の見通しとしては妥当な水準だと捉えています。

Q：全体：株主還元性向25%を目指すと発表されたが、今期（2016年3月期）の予想配当を10円で計算しても、目標水準に届かないのはなぜか？

A：中期3カ年経営計画で掲げている「営業利益率10%以上」「自己資本比率50%以上」を達成後の目標値です。また、配当以外の方法による還元も含め考えております。まずは、中期経営計画の達成を目指し、財務体質の強化を図ってまいります。

Q：半導体機器事業（SE）：第4四半期（2015年3月期）の営業利益および営業利益率ともに好調だった理由は？また、今期の見通しは？

A：製品構成比の変化に加え、変動費率の改善が進んだためです。
また、今期（2016年3月期）は、主力製品のSU3200の売上比率（枚葉洗浄装置・売上における割合）が上がることに加え、変動費率のさらなる改善により、営業利益率の向上を見込んでいます。

Q：印刷関連機器事業（GP）：CTP製品、POD製品の状況は？

A：国内のCTP更新需要は継続的に堅調です。一方のPODは、米国で好調なことに加え、欧州でも引き合いが増加しています。

Q：FPD機器事業（FT）：4期ぶりの黒字回復の背景と今後の見通しは？

A：売上増加により、限界利益が増加し、黒字化を達成しました。足下の受注および受注残は好調に推移し、今期も黒字継続を目指しています。

以上
